

ドクター+フジ



この連載を始めてから、新聞のおくやみ欄や芸能ニュースを丁寧にチェックするようになりました。そして、今回ほど情報の少ない訃報は初めてだと感じます。

フォークソング歌手、森田童子(どうじ)さんが4月24日に亡くなりました。享年66。死因は心不全との報道も一部ありましたが、詳細はわかりません。

1975年にデビューし、83年には引退しているのに、リアルタイムで知っている人は少ないかも。しかし、93年放送のドラマ『高校教師』の主題歌『ぼくたちの失敗』が大ヒットし、社会現象にまでなりました。私も当

59 森田童子

誰にも干渉されない幕引き

©ユニバーサルミュージック



時、森田さんの声を聴きたいがため『高校教師』にチャンネルを合わせました。彼女の歌は、生と死の境界線を漂いながら作られているように思えました。確かデビュー曲の『さよならぼくともたち』も、学生運動で亡くなった友人のために作ったものだと言ったことがあります。

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどきは痛い死に方」は、いずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

男性か女性かもよくわからない。レコードジャケットに映る顔も、大きなサングラスで隠されていてよくわからぬまま『ぼくたちの失敗』が街角に流れまです。おそらくこの時期、レコード会社の人は、何度も森田さんにテレビ出演のお願いをしたことでしょう。しかし、森田さんは、首を縦には振らなかつた。引退後は専業主婦として暮らし、生涯を閉じたのです。「ひっそりと人生の幕を降ろす」という表現がぴったりな最期だと思いました。

それが良いことか悪いことかはさておき、誰にも干渉されず、そっと生きて、そっと死にたい人もいるのだと、森田さんが教えてくれたような気がしました(この記事も無料ですよね、すみません)。

さて、私が副理事を務める日本尊厳死協会は、この秋に向けて、「リビングウイル・ノート」を作成中です。リビングウイルとは、生前の遺言。巷のエンディングノートが「死んだ後どうしてほしいか」を主眼にしたものであるのに対し、リビングウイル・ノートは、「どのようにな人生を終わらせたいか」を主眼にして編集されています。きつと森田さんは「私の死の詳細を公表しないで」という強い意志を家族や周囲に表明し協力してもらったのだと想像します。

己の闘病や死を、どこまでSNS等で公表してほしいか否かも、事前に意思表示しなければならぬ時代になってきました。

誰もがSNSで情報発信ができる時代、ひっそりと死ぬことが極めて難しくなっています。「いいね」を押されることに無意識の快感を覚え、承認欲求を持て余している人が増えるなか、死までもが「いいね」のカウントで消費されていく。家族の死と弔いの過程をSNSで実況中継している人も珍しくはありません。